

第67回全道短歌大会

さん清谷益次短歌賞
184首の応募作品から

今年も第67回全伯短歌大会（椰子樹一ツケイ新聞共催）が13日、文協ビル内のエスペランサ婦人会サロンで開催され、例年より多くの49人が参加した。歌友と旧交を温めながら日がな一日歌作りに励んだ。184首の中から栄えある総合1位を獲得した富岡絹子さんは「清谷益次短歌賞」が贈られた。

互選得票	
三三票	リモコンで操作
する」と我が家夫は「才	無きブラジルに老い
イ」一言で私を使う	見る故里の夢
内谷美保	富岡絹子
一九票	アバカテの枝
吊るせるブランコが今	二二票 日本語解せぬ孫
は静けさのみを乗せお	とボ語知らぬ我との会話
上妻泰	成り立つ不思議
多田邦	一七票 「ばあちゃん」
ん」手をとるひい孫三	已百歳二合



参加者全員で記念撮影

酒井祥三　ドの私　新井知里

一四票 独り居 移り来て住み慣れし國
に馴れて余生に に八十年されど恋しき里
弱音なしささや の山川 「もう母になつてゐる
かながらも花を や」と妻は問う杳く逝き
咲かせて 島田喜久枝 たる娘の命日に 元治彦

一三票 幼名で 再びの訪うに難なき故
互いに呼びし友 里を離れる日にぞ母を抱
逝きて遠くなり き締む 折々に妻の遺影と日の
けり我が故郷は 合ひて達者でいるよと手
筒井あつし を振りて微笑 (え) む 九票 ぽろ。
今宵女孫の卒 早川量通 半
業式に臨まむと て探

吾娘の遺影を ブラ て
バツグにしのば たけこの国で我也イツ プラ
す 三宮行功 そ でに
わが子等よ伸びよはば ラマ
ペーを国歌とせしに は日 て
武地志津 収ま 激 伏

一二票 耳底に の動きが確実に師走とな
せらぎの清き流 りて街にあふるる

鎌谷昭 て

互選得票	
三三票	リモコンで操作するごと我が夫は「才」
二二票	日本語解せぬ孫とボ語知らぬ我との会話
一九票	アバカテの枝吊るせるブランコが今
一七票	は静けさのみを乗せお
多田邦	一九票 アバカテの枝 は静けさのみを乗せお ん 手をとるひい孫三 上妻泰
富岡絹子	八票 終の地と決めて い無きブラジルに老い 尚見る故里の夢
内谷美保	一票 「ばあちゃん」
多田邦	手をとるひい孫三

今年も第67回全伯短歌大会（柳子樹二ッケイ新聞共催）が13日、文協ビル内のエスペランサ婦人会サロンで開催され、例年より多めの49人が参加した。歌友と旧交を温めながら日がな一日歌作りに励んだ。184首の中から栄えある総合1位を獲得した富岡絹子さんには「清谷益次短歌賞」が贈られた。



真剣な表情でペンを走らせる皆さん

かげに志村とく
政治家のモラルなき国
ブラジルの汚職なくせと
庶民の願い平間浩一
八票 歌一つ手帳に書き
居る間にも夕映え雲の色
うつりゆく 崎山美知子
老いゆくは自然のこと
と嘆かねど見守る子等は
さびしかるらん

小野寺郁子
映りいるしわの深さや
赤銅は農に生きたる者の
勲章

高橋真栄
言葉には未だし曾孫が
仏前に両手（もろて）を
合わせ頭を下げる

春を待つ桜見守る夕べ
には南の風よ柔かに吹け

良き友に囲まれてある
わが幸を夜毎朝毎神に感
謝す

千田修子
八票 老いという濃霧
の中に紛れ込み妻よ出口
を共に探そう 松岡正樹
髪アップして娘の眼鼻
きりつとなり今から歯科
の勤務に出かける

原君子
七票 労働を終えてラン
プに灯をともし名作を読
むひと時たのし
み消ゆる事なき

上口誠一
年古りてヒヨイと出で
くる国ことば移民の哀し
み消ゆる事なき

上妻泰子
ご先祖の石碑のめぐり
に雨つゆをやどして咲け
るつゆ草の花 青柳ます
子も孫も曾孫も生せり
この国を故郷とおもい愛
でしる日々

坂上美代栄
母よりのセピア色なる
封筒に身の辺整理のその
手とどまる 須賀徳司

ホロホロと落つる木の
葉の一枚が一羽となりて
かなたへ飛べる

外山安津子
血縁の重きを知らぬ子
等の居り孫なき春のゆ
ゆると過ぐ 長井エミ子
若き夢この道確かに波
頭越え悔いなき余生心安
らぐ

平間浩二
大人らの心配よそに船
上で無邪気に手を振る難
民の子ら 山田節子
花束を抱きてはじらう
誕生日八十歳の秋の日の
午後

小濃方子

会・互選総合高得点歌大		第六七回全伯短歌大	
一位	(三三票)	富岡絹子	第五番 (二八票)
二位	(二九票)	上妻泰子	五五番 (二八票)
三位	(二七票)	内谷美保	五五番 (二八票)
四位	(二六票)		五五番 (二八票)
五位	(二五票)		五五番 (二八票)
六位	(二四票)		五五番 (二八票)
七位	(二一票)		五五番 (二八票)
八位	(二〇票)		五五番 (二八票)
九位	(一九票)		五五番 (二八票)
十位	(一八票)		五五番 (二八票)
十一位	(一七票)		五五番 (二八票)
十二位	(一六票)		五五番 (二八票)
十三位	(一五票)		五五番 (二八票)
十四位	(一四票)		五五番 (二八票)
十五位	(一三票)		五五番 (二八票)
十六位	(一二票)		五五番 (二八票)
十七位	(一票)		五五番 (二八票)

会社設立後、業種・業態によって、ブラジルでは次にやらないことが全く違つてくる。商品によっては、ブラジルで販売するための認証を政府機関から取得しなければならない。そこでまた、前回記した会社設立時と同じ

役所の真実に再会する。認証取得後の販売段階では本当に高い税金と手数料がかかる。商品によっては、ブラジルで販売するための認証を政府機関から取得しなければならない。そこでもう一つ大切な真実が多いわけだ。

4%前後の金利収入があることだ。この



(第44回)

一個人になつた武雄は困感した。幸い、前出の総領事館の齊藤の世話で、支配人にしかるべき人材を得た。購入地の開拓に着手手つた。その時の写真が残っているが、中に衝撃的な一枚がある。人間の髑髏が森林を伐採、山焼きをして整地中に、偶然発掘してしまった。それはともかく、整地した土地には、1万5千本のカツラの苗を植え、それをインヂオの骨と鑑定したので、読経の上、再埋葬した。その後を支配人に任せて、翌1930年に結婚した。翌年の令嬢は、夫と一緒に日本に戻り復学した。翌1930年に結婚して、良家の令嬢は、夫と一緒に日本に戻り復学した。

1年後には、山焼きたるの道楽が見ええた。「今逃げ出すだろう」と噂を現した。太陽が原始林に沈んで、オンサ(豹)などの野生物が、しばしば姿を現した。太陽が原始林に沈んだが、周囲は山まで続く。この新婚夫婦が堪えられない様な環境ではなかつた。髑髏の出現一つをとっても、そうであつたが、周囲は山まで続く。この新婚夫婦が堪えられない様な環境ではなかつた。髑髏の出現一つをとっても、そうであつたが、周囲は山まで続く。

悲嘆のドン底に蹴落

た。二人が到着後、さ

らに7万5千本を植え、育

成した。幸運なことに、この193

3年6月、突如大降霜が襲来したのである。一夜にして15万本は青色に変じた。「死闘の努力も夢幻の如く消え去

る。父親の資金援助を得ようとしても、3年はかかる」と打電した。江戸時代の力で、捲土重来を期そうと

したが、被害を受けたカツラの回復は順調に行つても3年はかかる

ようとしても、3年はかかる」と打電した。江戸時代の力で、捲土重来を期そうと

したが、被害を受けたカツラの回復は順調に行つても3年はかかる

ようとしても、3年はかかる」と打電した。江戸時代の力で、捲土重来を期そう

